

高松地方気象台長からのご挨拶



令和6年4月1日に着任した高松地方気象台長の榎田貴郁(うめだたかふみ)です。これまで、気象庁本庁で週間予報や季節予報に携わって参りましたが、防災最前線の地方気象台の台長となり、身の引き締まる思いです。

比較的災害が少ないと言われる香川県ですが、平成16年には台風第16号や第23号など9個の相次ぐ台風により、死者が19名、全半壊の家屋が122棟、高潮等による床上浸水が10000棟を超えるなど、大きな被害となりました。地球温暖化により全国的に大雨の頻度が増加している可能性があり、今後ますます、大雨等への備えが重要になってきます。

南海トラフ地震は、概ね100～150年間隔で繰り返し発生しており、前回の南海トラフ地震（昭和東南海地震（1944年）及び昭和南海地震（1946年））が発生してから80年近くが経過した現在では、次の南海トラフ地震発生 of 切迫性が高まっています。地震・津波への備えも重要です。

事前に、市役所・町役場等の災害ごとのハザードマップを見て、自宅がどういう場所か、どこに避難場所があるのか、あるいは避難経路がどうなっているのかを確認しておくことが大切です。

気象台では、市町の避難情報の発令や県民の皆様の避難の判断にご活用いただくため、警報等の防災気象情報を発表しています。大雨による災害の危険度が高まっている場所を地図上で示す「キキクル」も気象庁ホームページで見ることができますので、是非ご活用ください。よろしくお願ひ致します。

令和6年4月
高松地方気象台長
榎田 貴郁